

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
つくば国際ペット専門学校	平成18年3月10日	高橋 仁	〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人つくば文化学園	平成18年3月10日	東郷 治久	〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																															
	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
	専門課程	ペットビジネス学科 ドッグトリマーコース	平成19年		平成27年																													
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と機能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(一般社団法人)全日本愛犬技術者指導協会、(一般社団法人)ジャパンケネルクラブの資格取得が可能																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 #VALUE! 単位	884 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	816 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留学生割合(B/A)																															
80人	99人	0人	0%																															
就職等の状況	<p>■卒業者数(C) : 46人</p> <p>■就職希望者数(D) : 39人</p> <p>■就職者数(E) : 35人</p> <p>■地元就職者数(F) : 17人</p> <p>■就職率(E/D) : 89%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 48%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 76%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 ペットショップ、ペットサロン、動物病院</p>																																	
第三者による学校評価	■民間の評価機関等から第三者評価:なし ※有の場合、例えば以下について任意記載		0		評価結果を掲載したホームページURL																													
当該学科のホームページURL	https://www.tip.ac.jp/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間	うち必修授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位
総授業時数	1,700 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,700 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																	
うち必修授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>6人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人	計	6人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	3人																																	
計	6人																																	

1.「専攻分野に+A1:L24関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携を取り、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認を

受けて決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和5年10月2日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

複数の職種の詳細な専門知識、技術を持った人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。また、全コースでトリマー資格が取得可能になり学校の大きな魅力となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、教職員研修規定に基づき、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: インターンシップ事前研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年7月14日 対象: 教員
 内容: つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ受入れの内容と配属について講義を受け理解を深めた。

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年9月16日～9月18日 対象: 教職員
 内容: 校長の指示により、教職員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物愛護セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会
 期間: 令和5年10月15日 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーにて動物愛護に関する認識や茨城県の現状について学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和6年9月14～9月16日 対象: 教職員
 内容: つくばわんわんランドの動物飼育や接客心対に教職員を参加させ、衛生管理や市場ニーズなどの知識を高める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物関係セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会他
 期間: 令和6年9月～10月 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。
 管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。
 評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			犬学	犬の種類、習性、しつけ等について学習する	1通	68		○			○		○		
2	○			猫学	猫の種類、習性、飼い方等について学習する	1通	34		○			○		○		
3	○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1 2通	102		○			○		○		
4	○			ペット販売学	ペット販売に必要な知識、説明方法、法規などを学習する	1通	34		○			○		○		
5	○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1通	68		○			○		○		
6	○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	1 2通	136		○			○		○		
7	○			公衆衛生学	公衆衛生について意義、法律、病気などを学習する。	2通	34		○			○			○	
8	○			ビジネスマナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2通	34		○			○		○		
9	○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2通	34		○			○		○		
10	○			飼育管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	2通	34		○			○		○		
11	○			ペットショップ概論	ペットショップの役割、在り方、経営方法などモデルケースを学習する	2通	34		○			○		○		
12	○			グルーミング概論	犬の手入れ方法、道具の使い方等を犬種別に学習する	1 2通	136		○			○		○		

13	○		トリミング概論	犬のカットスタイルについて犬種、スタイル別に必要な技術とともに学習する	1 2 通	136		○			○		○		
14	○		トリミング実習	犬のカット方法を実際の犬を使って実習で習得する	1 2 通	612					○	○		○	○
15	○		ハンドリング実習	ドッグショーでの犬の扱い方、歩かせ方などを実習で習得する	1 通	68					○	○		○	
16	○		繁殖学実習	犬の交配、出産などの管理を実習で習得する	2 通	68					○	○		○	
17	○		総合実習	レクリエーション大会、学園祭、動物愛護行事、わんわんランド研修、研修旅行など広い分野の実習を行う	2 通	68					○	○	○	○	○
合計						17	科目	1700 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全科目の単位修得を以て卒業要件とする。		1 学年の学期区分	2 期
履修方法：全科目必須履修、定期試験で評価する。		1 学期の授業期間	35 週

(留意事項)

- 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名	設置認可年月日	校長名	所在地																															
つくば国際ペット専門学校	平成18年3月10日	高橋 仁	〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																															
設置者名	設立認可年月日	代表者名	所在地																															
学校法人つくば文化学園	平成18年3月10日	東郷 治久	〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																															
	認定課程名	認定学科名	専門士認定年度	高度専門士認定年度	職業実践専門課程認定年度																													
	専門課程	ペットビジネス学科 ドッグトレーナーコース	平成19年		平成27年																													
学科の目的	教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と機能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																																	
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)	(一般社団法人)全日本愛犬技術者指導協会、(一般社団法人)ジャパンケネルクラブの資格取得が可能																																	
修業年限	昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数	講義	演習	実習	実験	実技																											
2年	昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 #VALUE! 単位	918 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	782 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位																											
生徒総定員	生徒実員(A)	留学生数(生徒実員の内数)(B)	留學生割合(B/A)																															
80人	105人	0人	0%																															
就職等の状況	<p>■卒業生数(C) : 40人</p> <p>■就職希望者数(D) : 33人</p> <p>■就職者数(E) : 33人</p> <p>■地元就職者数(F) : 13人</p> <p>■就職率(E/D) : 100%</p> <p>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E) : 39%</p> <p>■卒業者に占める就職者の割合(E/C) : 82%</p> <p>■進学者数 : 0人</p> <p>■その他</p> <p>(令和5年度卒業者に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 ペットショップ、動物病院、テーマパーク</p>																																	
第三者による学校評価	<p>■民間の評価機関等から第三者評価:なし ※有の場合、例えば以下について任意記載</p> <p>0</p> <p>評価団体: 受審年月: 評価結果を掲載したホームページURL</p>																																	
当該学科のホームページURL	https://www.tip.ac.jp/																																	
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)	<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>						総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間	うち必修授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位
総授業時数	1,700 単位時間																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間																																	
うち必修授業時数	1,700 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																	
総授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																	
うち必修授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																	
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																	
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																	
教員の属性(専任教員について記入)	<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>3人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>3人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数 3人</p>						① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人	計	3人																
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	3人																																	
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	0人																																	
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																	
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																	
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	0人																																	
計	3人																																	

1.「専攻分野に+A1:L24関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携を取り、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認を

受けて決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和5年10月2日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

複数の職種の詳細な専門知識、技術を持った人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。また、全コースでトリマー資格が取得可能になり学校の大きな魅力となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、教職員研修規定に基づき、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: インターンシップ事前研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年7月14日 対象: 教員
 内容: つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ受入れの内容と配属について講義を受け理解を深めた。

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年9月16日～9月18日 対象: 教職員
 内容: 校長の指示により、教職員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物愛護セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会
 期間: 令和5年10月15日 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーにて動物愛護に関する認識や茨城県の現状について学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和6年9月14～9月16日 対象: 教職員
 内容: つくばわんわんランドの動物飼育や接客心対に教職員を参加させ、衛生管理や市場ニーズなどの知識を高める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物関係セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会他
 期間: 令和6年9月～10月 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。
 管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。
 評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!																
	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任	
1	○			公衆衛生学	公衆衛生について意義、法律、病気などを学習する。	1通	34		○			○			○	
2	○			飼育学	動物飼育の方法について学習する	1 2通	102		○			○		○		
3	○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1通	34		○			○		○		
4	○			動物行動学	動物の行動について、特に犬の習性について学習する	1通	34		○			○			○	
5	○			動物社会学	社会の中での動物の役割、扱い方などを学習する。	1通	34		○			○		○		
6	○			伴侶動物学	ペットとしての動物の特性、飼養方法等を学習する	1通	68		○			○		○		
7	○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1通	68		○			○		○		
8	○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	1 2通	68		○			○		○		
9	○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2通	34		○			○		○		
10	○			飼育管理学	動物の飼育方法と、管理方法について学習する	2通	34		○			○		○		
11	○			動物環境学	動物を飼育する環境、動物がいる場所の環境などについて学習する。	2通	34		○			○		○		
12	○			動物管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	2通	34		○			○		○		

13	○	ビジネスマナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2通	34	○			○	○		
14	○	ペットショップ概論	ペットショップの役割、在り方、経営方法などモデルケースを学習する	2通	34	○			○	○		
15	○	動物衛生学	動物飼養に関する消毒法、廃棄物の扱い方等を学習する	1通	68	○			○	○		
16	○	動物生態学	動物が生息する環境や生態を学習する	1通	34	○			○			
17	○	ペット販売学	ペット販売に必要な知識、説明方法、法規などを学習する	1通	34	○			○	○		
18	○	ペットシッター概論	ペットシッターの役割、在り方などをモデルケースを上げて学習する	2通	34	○			○	○		
19	○	アジリティ概論	アジリティのルール、練習方法、動物の管理方法などを学習する	2通	34	○			○		○	
20	○	しつけ訓練学	犬の習性、骨格、気質などを理解し、その訓練方法を学習する	2通	68	○			○	○		
21	○	グルーミング実習	犬の手入れ方法、シャンプー、カットスタイルなどを実習で習得する	1 2通	##				○	○	○	
22	○	トレーニング実習	犬のしつけ、訓練全般を実習で習得する	1 2通	##				○	○	○	
23	○	アジリティ実習	アジリティの練習を実習で行う	2通	68				○	○		○
24	○	総合実習	レクリエーション大会、学園祭、動物愛護行事、わんわんランド研修、研修旅行など広い分野の実習を行う	2通	68				○	○	○	○
合計				24 科目		1700 単位 (単位時間)						

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全科目の単位修得を以て卒業要件とする。		1学年の学期区分	2期
履修方法：全科目必須履修、定期試験で評価する。		1学期の授業期間	35週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日		高橋 仁		〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日		東郷 治久		〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																																							
認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																					
専門課程		ペットビジネス学科 愛玩動物看護師コース		平成19年				平成27年																																					
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と機能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		(一般社団法人)全日本愛犬技術者指導協会、(一般社団法人)ジャパンケネルクラブの資格取得が可能。愛玩動物看護師国家試験受験資格。																																											
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																				
3年		昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 2,312 単位時間 #VALUE! 単位		1,258 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	1,054 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位																																				
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																							
180人		171人		0人		0%																																							
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>:</td><td>40</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>34</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>33</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>19</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>97</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>57</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>82</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 動物病院、動物飼育施設、テーマパーク、ペットショップ</p>								■卒業生数(C)	:	40	人	■就職希望者数(D)	:	34	人	■就職者数(E)	:	33	人	■地元就職者数(F)	:	19	人	■就職率(E/D)	:	97	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	57	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	82	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業生数(C)	:	40	人																																										
■就職希望者数(D)	:	34	人																																										
■就職者数(E)	:	33	人																																										
■地元就職者数(F)	:	19	人																																										
■就職率(E/D)	:	97	%																																										
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	57	%																																										
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	82	%																																										
■進学者数	:	0	人																																										
■その他	:																																												
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価:なし ※有の場合、例えば以下について任意記載				0																																							
当該学科のホームページURL		<p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL</p> <p>https://www.tip.ac.jp/</p>																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>2,312 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>2,312 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>								総授業時数	2,312 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間	うち必修授業時数	2,312 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位								
総授業時数	2,312 単位時間																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間																																												
うち必修授業時数	2,312 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																												
総授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																												
うち必修授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																												
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>5人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>4人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	5人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	2人																																												
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																												
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																												
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																												
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																												
計	5人																																												

1.「専攻分野に+A1:L24関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携を取り、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認を

受けて決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和5年10月2日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

複数の職種の詳細な専門知識、技術を持った人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。また、全コースでトリマー資格が取得可能になり学校の大きな魅力となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、教職員研修規定に基づき、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: インターンシップ事前研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年7月14日 対象: 教員
 内容: つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ受入れの内容と配属について講義を受け理解を深めた。

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年9月16日～9月18日 対象: 教職員
 内容: 校長の指示により、教職員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物愛護セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会
 期間: 令和5年10月15日 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーにて動物愛護に関する認識や茨城県の現状について学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和6年9月14～9月16日 対象: 教職員
 内容: つくばわんわんランドの動物飼育や接客心対に教職員を参加させ、衛生管理や市場ニーズなどの知識を高める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物関係セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会他
 期間: 令和6年9月～10月 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。
 管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。
 評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業時数	単位数	授業方法			場所		教員		企業等との連携	
	必修	選択必修	自由選択						講義	演習	実験・実習・実技	校内	校外	専任	兼任		
1	○			動物形態機能学	動物の生命維持の仕組みと解剖学及び生理学の基礎を知り、動物体の構造と機能について学習する	1通	##		○			○				○	
2	○			動物繁殖学	犬や猫の生殖器の構造と機能、性行動及び発情・交尾・妊娠・分娩の過程を学ぶ。ペットに適正な繁殖について学習する	1通	34		○			○			○		
3	○			動物病理学	生理機能の障害からどのような病気が発生し、どのように変化し、どのように回復するかを理解する。病変の特徴や分類などを学習する。	1通	34		○			○			○		
4				動物薬理学	獣医師が処方する薬剤についてその薬理作用や取り扱い、保存方法を習得し、服薬指導について学習する	1通	68		○			○					○
5	○			動物感染症学	動物に感染する微生物や寄生虫の特徴や生活環、感染経路、症状について学習する	1通	##		○			○			○		
6	○			動物看護学概論	小動物獣医療における動物看護師の職域を確立するため多岐にわたる獣医師の業務を理解し、動物看護技術を学習する	1通	68		○			○			○		
7	○			動物医療関連法規	動物看護師が行う獣医療関連業務とそれを取り巻く法律の仕組みを理解し、法令遵守の精神と動物関連の法令を学習する	2通	34		○			○			○		
8	○			公衆衛生学	公衆衛生の基本的な考え方を理解し、人獣共通感染症、食品衛生、環境衛生などについて学習する	1通	68		○			○					○
9	○			人間動物関係学	人間と動物の関係の歴史を理解し、人間と動物の関係性と動物介在療法などの活動を学習する	1通	34		○			○			○		
10	○			動物福祉倫理	動物愛護や動物福祉の発展を学び、動物関連法規や人との関わりから動物福祉への精神を学習する	1通	34		○			○			○		
11	○			動物行動学	犬や猫の発生起源、種類による特徴を知り、基本的行動様式から適正飼育とハンドリング、しつけを中心に学習する	1通	34		○			○			○		
12	○			伴侶動物学	伴侶動物の歴史や品種、飼育管理法、およびエキゾチックアニマルの生態について学ぶ	1通	68		○			○			○		

13	○		産業動物学	産業動物の歴史や品種、飼養管理法、および畜産業など社会との関わりについて学ぶ	1通	51		○			○		○					
14	○		実験動物学	実験動物の歴史や品種、飼育管理法、動物実験との関わりについて学ぶ	1通	17		○			○							○
15	○		野生動物学	日本の野生動物の種類と保全、動物園等の展示動物について学ぶ	1通	34		○			○		○					
16	○		総合実習	動物飼育や接客、施設保全など動物の飼育や職業訓練に必要な技術を幅広く習得する	1 2通	##					○	○	○	○	○	○	○	○
17	○		動物内科看護学	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療の補助に必要な基礎知識を学び、身体検査や採血、投薬、輸液、輸血などについて理解する	2通	34		○			○		○					
18	○		動物外科看護学	外科診療に必要な基礎知識を学び、術前準備から術中補助、術後管理までの流れを系統的に理解し、安全な手術の実施に必要な知識を学ぶ	2通	68		○			○		○					○
19	○		動物臨床看護学総論	動物看護過程の一連のプロセスを学び、事例毎の個別性に重きを置いた動物看護の基本的な考え方を修得する	2通	34		○			○		○					
20	○		動物臨床看護学各論	様々な疾患の病態生理を理解し、症状や必要な処置、治療に関する基本的な知識を学ぶ	2通	##		○			○		○					○
21	○		動物臨床栄養学	5大栄養素やその代謝など基礎栄養学を学ぶとともに、ライフステージや疾患ごとの違い、各種療法食の特色や給餌方法など臨床栄養学を修得する	1通	68		○			○		○					
22	○		動物臨床検査学	様々な臨床検査の原理や方法、意義について学び、検体や測定機器の正しい扱い方、所見の記録方法を修得する	1通	68		○			○		○					○
23	○		動物医療コミュニケーション	日常健康管理に関わる飼い主教育や事前問診、入院動物の容態説明、院内における他のスタッフとのコミュニケーションの基礎について学ぶ	2通	34		○			○		○					○
24	○		動物形態機能学実習	動物の身体の形態と機能を、骨格標本や臓器模型、主要臓器の組織像などを通じて学ぶ	2通	51					○	○						○
25	○		動物内科看護学実習	犬や猫の日常的な健康管理や内科診療に必要な手技など、動物内科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	##					○	○		○				
26	○		動物臨床検査学実習	検体検査および生体検査に必要な手技や機器の扱い方など、動物臨床検査学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	##					○	○		○				
27	○		動物外科看護学実習	手術準備や術中・術後管理・麻酔準備や麻酔監視、手術の補助、救急救命など動物外科看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51					○	○		○				

28	○		動物臨床看護学実習	動物看護過程や疾患別の看護など動物臨床看護学で学んだ知識の実践力を修得する	2通	51				○	○	○		
29	○		動物看護総合実習	動物病院で実際の動物看護業務を体験し、身につけた知識や技術を総合的に実践する。	2通	##				○	○	○		
合計					33	科目	2312 単位 (単位時間)							

卒業要件及び履修方法		授業期間等	
卒業要件：全科目の単位修得を以て卒業要件とする。		1 学年の学期区分	5 期
履修方法：全科目必須履修、定期試験で評価する。		1 学期の授業期間	35 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3 (3) の要件に該当する授業科目について○を付すこと。

職業実践専門課程等の基本情報について

学校名		設置認可年月日		校長名		所在地																																							
つくば国際ペット専門学校		平成18年3月10日		高橋 仁		〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																																							
設置者名		設立認可年月日		代表者名		所在地																																							
学校法人つくば文化学園		平成18年3月10日		東郷 治久		〒 300-4353 (住所) 茨城県つくば市沼田字川戸578 (電話) 029-866-2800																																							
認定課程名		認定学科名		専門士認定年度		高度専門士認定年度		職業実践専門課程認定年度																																					
専門課程		ペットビジネス学科 ペットケア総合コース		平成19年				平成27年																																					
学科の目的		教育基本法及び学校教育法に従い、ペットビジネスに必要な専門知識と機能技術を習得させ、社会と業界に貢献する有為な人材を養成することを目的とする。																																											
学科の特徴(取得可能な資格、中退率等)		(一般社団法人)全日本愛犬技術者指導協会、(一般社団法人)ジャパンケネルクラブの資格取得が可能。																																											
修業年限		昼夜	全課程の修了に必要な総授業時数又は総単位数		講義	演習	実習	実験	実技																																				
2年		昼間	※単位時間、単位いずれかに記入 1,700 単位時間 #VALUE! 単位		952 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	748 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位	0 単位時間 〇〇 単位																																				
生徒総定員		生徒実員(A)		留学生数(生徒実員の内数)(B)		留学生割合(B/A)																																							
80人		69人		0人		0%																																							
就職等の状況		<table border="1"> <tr><td>■卒業生数(C)</td><td>:</td><td>44</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職希望者数(D)</td><td>:</td><td>36</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職者数(E)</td><td>:</td><td>32</td><td>人</td></tr> <tr><td>■地元就職者数(F)</td><td>:</td><td>15</td><td>人</td></tr> <tr><td>■就職率(E/D)</td><td>:</td><td>89</td><td>%</td></tr> <tr><td>■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)</td><td>:</td><td>46</td><td>%</td></tr> <tr><td>■卒業者に占める就職者の割合(E/C)</td><td>:</td><td>72</td><td>%</td></tr> <tr><td>■進学者数</td><td>:</td><td>0</td><td>人</td></tr> <tr><td>■その他</td><td>:</td><td></td><td></td></tr> </table> <p>(令和5年度卒業生に関する令和6年5月1日時点の情報)</p> <p>■主な就職先、業界等 令和5年度卒業生 ペットショップ、動物病院、動物飼育施設</p>								■卒業生数(C)	:	44	人	■就職希望者数(D)	:	36	人	■就職者数(E)	:	32	人	■地元就職者数(F)	:	15	人	■就職率(E/D)	:	89	%	■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%	■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	72	%	■進学者数	:	0	人	■その他	:		
■卒業生数(C)	:	44	人																																										
■就職希望者数(D)	:	36	人																																										
■就職者数(E)	:	32	人																																										
■地元就職者数(F)	:	15	人																																										
■就職率(E/D)	:	89	%																																										
■就職者に占める地元就職者の割合(F/E)	:	46	%																																										
■卒業者に占める就職者の割合(E/C)	:	72	%																																										
■進学者数	:	0	人																																										
■その他	:																																												
第三者による学校評価		■民間の評価機関等から第三者評価:なし ※有の場合、例えば以下について任意記載				0																																							
当該学科のホームページURL		<p>評価団体: _____ 受審年月: _____ 評価結果を掲載したホームページURL</p> <p>https://www.tip.ac.jp/</p>																																											
企業等と連携した実習等の実施状況(A、Bいずれかに記入)		<p>(A: 単位時間による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>1,700 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>16 単位時間</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>2 単位時間</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>0 単位時間</td></tr> </table> <p>(B: 単位数による算定)</p> <table border="1"> <tr><td>総授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち必修授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>うち企業等と連携した必修の演習の授業時数</td><td>〇〇 単位</td></tr> <tr><td>(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)</td><td>〇〇 単位</td></tr> </table>								総授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間	うち必修授業時数	1,700 単位時間	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間	総授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位	うち必修授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位	うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位	(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位								
総授業時数	1,700 単位時間																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	2 単位時間																																												
うち必修授業時数	1,700 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	16 単位時間																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	2 単位時間																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	0 単位時間																																												
総授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した演習の授業時数	〇〇 単位																																												
うち必修授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した必修の実験・実習・実技の授業時数	〇〇 単位																																												
うち企業等と連携した必修の演習の授業時数	〇〇 単位																																												
(うち企業等と連携したインターンシップの授業時数)	〇〇 単位																																												
教員の属性(専任教員について記入)		<table border="1"> <tr> <td>① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)</td> <td>2人</td> </tr> <tr> <td>③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)</td> <td>0人</td> </tr> <tr> <td>⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)</td> <td>1人</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>4人</td> </tr> </table> <p>上記①～⑤のうち、実務家教員(分野におけるおおむね5年以上の実務の経験を有し、かつ、高度の実務の能力を有する者を想定)の数</p> <p>3人</p>								① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人	② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人	③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人	④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人	⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人	計	4人																								
① 専修学校の専門課程を修了した後、学校等においてその担当する教育等に従事した者であって、当該専門課程の修業年限と当該業務に従事した期間とを通算して六年以上となる者 (専修学校設置基準第41条第1項第1号)	1人																																												
② 学士の学位を有する者等 (専修学校設置基準第41条第1項第2号)	2人																																												
③ 高等学校教諭等経験者 (専修学校設置基準第41条第1項第3号)	0人																																												
④ 修士の学位又は専門職学位 (専修学校設置基準第41条第1項第4号)	0人																																												
⑤ その他 (専修学校設置基準第41条第1項第5号)	1人																																												
計	4人																																												

1.「専攻分野に+A1:L24関する企業、団体等(以下「企業等」という。)との連携体制を確保して、授業科目の開設その他の教育課程の編成を行っていること。」関係

(1)教育課程の編成(授業科目の開設や授業内容・方法の改善・工夫等を含む。)における企業等との連携に関する基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携を取り、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2)教育課程編成委員会等の位置付け

※教育課程の編成に関する意思決定の過程を明記

教育課程編成委員会はペット関連企業、関係団体等の役職員と学校職員で構成され、社会および業界や地域の産業振興の方向性を見極め、より良い教育課程の編成を協力して行うものと位置付けしている。教育課程の編成は委員会の承認を

受けて決定する。

(3)教育課程編成委員会等の全委員の名簿

令和6年5月1日現在

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	②
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	③
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	

※委員の種別の欄には、企業等委員の場合には、委員の種別のうち以下の①～③のいずれに該当するか記載すること。(当該学校の教職員が学校側の委員として参画する場合、種別の欄は「-」を記載してください。)

- ①業界全体の動向や地域の産業振興に関する知見を有する業界団体、職能団体、地方公共団体等の役職員(1企業や関係施設の役職員は該当しません。)
- ②学会や学術機関等の有識者
- ③実務に関する知識、技術、技能について知見を有する企業や関係施設の役職員

(4)教育課程編成委員会等の年間開催数及び開催時期

(年間の開催数及び開催時期)

委員会の会議は年2回、4月と10月に開催する。また、必要に応じて委員長が招集する。

(開催日時(実績))

第1回 令和5年4月1日 16:00～18:00

第2回 令和5年10月2日 16:00～18:00

(5)教育課程の編成への教育課程編成委員会等の意見の活用状況

※カリキュラムの改善案や今後の検討課題等を具体的に明記。

複数の職種の詳細な専門知識、技術を持った人材が求められているとの意見と授業の多様化の提案から、特別講座等の指導機会を設け、希望する学生の受講を募っている。また、全コースでトリマー資格が取得可能になり学校の大きな魅力となった。

2.「企業等と連携して、実習、実技、実験又は演習(以下「実習・演習等」という。)の授業を行っていること。」関係

(1)実習・演習等における企業等との連携に関する基本方針

インターンシップ活動として実務、接客等にあたり、実際の職場を経験させることを基本方針とする。

在学期間中にできるだけ多くの動物を使った実習が有効と考え、担当教員の要請により、可能な限りの動物の提供を受け実習に活用する。専門的技術、技術の習得に不可欠な実際の職場等を使った実習を行うため、施設の使用をお願いしている。

(2)実習・演習等における企業等との連携内容

※授業内容や方法、実習・演習等の実施、及び生徒の学修成果の評価における連携内容を明記

テーマパークの研修生としてスタッフと同様の動物飼育作業やお客様の対応にあたる研修を行い、総合実習の科目として企業からの評価を成績に反映させる。

提供を受ける動物については企業の担当者と担当教員が打合せの上、数ヶ月単位のスケジュールを組み、実際に有効に活用できるようにしている。また、企業からカットスタイルやしつけ方の要望を出してもらい結果の評価を担当教員に伝え成績に反映させている。

(3)具体的な連携の例※科目数については代表的な5科目について記載。

科目名	科目概要	連携企業等
総合実習(わんわんランド研修)	テーマパークにおいて、担当スタッフの指導の下、各部署や担当に分かれて動物管理や接客などの実習を行う。	つくばわんわんランド

3. 「企業等と連携して、教員に対し、専攻分野における実務に関する研修を組織的に行っていること。」関係

(1) 推薦学科の教員に対する研修・研究(以下「研修等」という。)の基本方針

※研修等を教員に受講させることについて諸規程に定められていることを明記

企業等の持つ業界の最新の情報や動向、企業での工夫、努力点等の情報と当校での教員の知識や教育指導の過不足、生徒の習熟度などの情報を共有し、教職員研修規定に基づき、学校長が指示する研修等において確認を行い、実践的かつ専門的な技能、技術の向上に努める。また、各競技会や学会等を積極的に活用するよう奨励している。

(2) 研修等の実績

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: インターンシップ事前研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年7月14日 対象: 教員
 内容: つくばわんわんランドから講師を招き、インターンシップ受入れの内容と配属について講義を受け理解を深めた。

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和5年9月16日～9月18日 対象: 教職員
 内容: 校長の指示により、教職員をつくばわんわんランドに派遣し動物管理、接客などの実務研修を行った。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物愛護セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会
 期間: 令和5年10月15日 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーにて動物愛護に関する認識や茨城県の現状について学んだ。

(3) 研修等の計画

① 専攻分野における実務に関する研修等

研修名: わんわんランド実務研修 連携企業等: 株式会社つくばわんわんランド
 期間: 令和6年9月14～9月16日 対象: 教職員
 内容: つくばわんわんランドの動物飼育や接客心対に教職員を参加させ、衛生管理や市場ニーズなどの知識を高める。

② 指導力の修得・向上のための研修等

研修名: 動物関係セミナー研修 連携企業等: 茨城県獣医師会他
 期間: 令和6年9月～10月 対象: 教職員
 内容: 茨城県獣医師会主催のセミナーや茨城県主催の動物愛護に関するシンポジウムに教員を参加させる。

4. 「学校教育法施行規則第189条において準用する同規則第67条に定める評価を行い、その結果を公表していること。また、評価を行うに当たっては、当該専修学校の関係者として企業等の役員又は職員を参画させていること。」関係

(1) 学校関係者評価の基本方針

ペット業界が求める人材を育成するため、ペット関連企業、関係団体等との連携をとり、最新の専門知識、技術技能を教育内容に反映させるなど、広く意見を取り入れ、カリキュラムの改善等を定期的に行う。

(2) 「専修学校における学校評価ガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの評価項目	学校が設定する評価項目
(1) 教育理念・目標	教育理念・目標
(2) 学校運営	学校運営
(3) 教育活動	教育活動
(4) 学修成果	学修成果
(5) 学生支援	学生支援
(6) 教育環境	教育環境
(7) 学生の受入れ募集	学生募集と受け入れ
(8) 財務	財務
(9) 法令等の遵守	法令等の遵守
(10) 社会貢献・地域貢献	
(11) 国際交流	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3) 学校関係者評価結果の活用状況

授業評価を行うことで各教員が質の高い授業を心掛け、工夫改善を相互に取り入れたりして授業力を高める取り組みがされ、特に業界の最新情報は現場の視察なども積極的に行っている。
 管理職ばかりでなく全教職員が学校を改善していこうとする参画意識が高まり、学校運営に対する姿勢を共通理解するようになり、授業運営や学生募集、環境整備などのコスト意識に反映されている。
 評価が公表されることにより、業界や地域社会、入学対象者などが必要としている情報を正確に認知し、的確な説明や対応ができるよう努力している。

(4) 学校関係者評価委員会の全委員の名簿

名前	所属	任期	種別
高橋 仁	つくば国際ペット専門学校		事務局
松島 美夫	一般社団法人全日本愛犬技術者指導協会	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	業界団体
田口 弘樹	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	企業
上倉 景子	つくばわんわんランド	令和5年10月1日～令和6年9月30日(1年)	卒業生
宮本 利子	つくば国際ペット専門学校		事務局
小寺 智也	つくば国際ペット専門学校		事務局
水野 恵理子	つくば国際ペット専門学校		事務局
寺崎 修司	つくば国際ペット専門学校		事務局

※委員の種別の欄には、学校関係者評価委員として選出された理由となる属性を記載すること。

(例)企業等委員、PTA、卒業生等

(5)学校関係者評価結果の公表方法・公表時期
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

5.「企業等との連携及び協力の推進に資するため、企業等に対し、当該専修学校の教育活動その他の学校運営の状況に関する情報を提供していること。」関係

(1)企業等の学校関係者に対する情報提供の基本方針

人材を育成するパートナーとして連携および協力するためにガイドラインに定められた事項や企業、団体が求める情報を提供し、強固な信頼関係の礎とする。情報提供は、ホームページや印刷物、説明会等で行う。

(2)「専門学校における情報提供等への取組に関するガイドライン」の項目との対応

ガイドラインの項目	学校が設定する項目
(1)学校の概要、目標及び計画	教育理念・目標及び計画
(2)各学科等の教育	各学科等の教育
(3)教職員	教職員
(4)キャリア教育・実践的職業教育	キャリア教育・実践的職業教育
(5)様々な教育活動・教育環境	様々な教育活動・教育環境
(6)学生の生活支援	学生の生活支援
(7)学生納付金・修学支援	学生納付金・修学支援
(8)学校の財務	学校の財務
(9)学校評価	学校評価
(10)国際連携の状況	
(11)その他	

※(10)及び(11)については任意記載。

(3)情報提供方法
(ホームページ)

URL: [URL:https://www.tip.ac.jp/](https://www.tip.ac.jp/)

公表時期: 令和6年7月31日

授業科目等の概要

#REF!	分類			授業科目名	授業科目概要	配当年次・学期	授業 時 数	単 位 数	授業方法			場所		教員		企業等との連携
	必修	選択必修	自由選択						講 義	演 習	実験・実習・実技	校 内	校 外	専 任	兼 任	
1	○			犬学	犬の種類、習性、しつけ等について学習する	1通	68		○			○		○		
2	○			猫学	猫の種類、習性、飼い方等について学習する	1通	34		○			○		○		
3	○			スタンダード学	犬種についての原産、特長、標準体型などを学習する	1 2通	##		○			○		○		
4	○			動物管理学	動物を飼養する場所の管理について学習する	1通	34		○			○		○		
5	○			動物社会学	社会の中での動物の役割、扱い方などを学習する。	1 2通	68		○			○		○		
6	○			動物飼養管理学	動物に関連する法律、動物と人間の歴史、動物の飼養方法などを学習する	1通	68		○			○		○		
7	○			寄生虫学	動物に寄生する寄生虫についてその特長や対処方法を学習する	2通	68		○			○			○	
8	○			ビジネスマナー	ビジネスにおけるマナーや文書の書き方などを学習する	2通	34		○			○		○		
9	○			基礎獣医学	動物の病気、怪我、治療法、応急処置方法等を学習する。	2通	34		○			○		○		
10	○			ペットビジネス学	ペット関連の様々な業種、仕事内容、現状などを学習する。	2通	34		○			○		○		
11	○			伴侶動物学	ペットとしての動物の特性、飼養方法等を学習する	2通	68		○			○		○		
12	○			エキゾチックアニマル概論	代表的なエキゾチックアニマルについて飼養の方法や性質について学習する	1通	34		○			○			○	

卒業要件及び履修方法	授業期間等	
卒業要件：全科目の単位修得を以て卒業要件とする。	1 学年の学期区分	5 期
履修方法：全科目必須履修、定期試験で評価する。	1 学期の授業期間	35 週

(留意事項)

- 1 一の授業科目について、講義、演習、実験、実習又は実技のうち二以上の方法の併用により行う場合については、主たる方法について○を付し、その他の方法について△を付すこと。
- 2 企業等との連携については、実施要項の3(3)の要件に該当する授業科目について○を付すこと。